

平成 28 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	広島市立梅林小学校		
学校長氏名	中西 浩二	栄養教諭氏名	岡本 淳子
職員数	47名	児童・生徒数	667名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

給食の残食については、主食・副食とも月ごとの平均残食率が1%前後で広島市の平均を下回っている。児童の「食」に対する意識の高さと給食調理員の調理技術の高さと学級担任の指導の成果と考えられる。給食指導については、各学年テーマを決めて取り組んでいるが、日々意識していくことがむずかしい。また校内統一した給食指導の確立が望まれる。食に関する指導については、学級活動だけではなく、教科等の単元の精査をし、さらに指導時間をふやし児童の関心を高める必要がある。地域との連携は、強化されつつある。今後も継続していきたい。個別指導についてはアレルギー対応については、確立されているが、肥満傾向児への指導等ができていない。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

地域との連携を深め、児童の郷土愛の心情を高めるために、「独自献立」を年間5回以上実施することを成果指標とした。

また、朝食で「野菜」を食べる児童の割合を昨年度47.9%だったため今年度は50%とすることを目標値とし取組を行った。



3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ）「地域との連携を高める『独自献立』の実施」

統一献立を中止して、年間7回の独自献立を実施した。

6月「梅林ふるさと給食」 10月「運動会応援給食」

11月「食育テーマ給食」 12月「佐東っこ給食」

「言語・数理運用科給食」

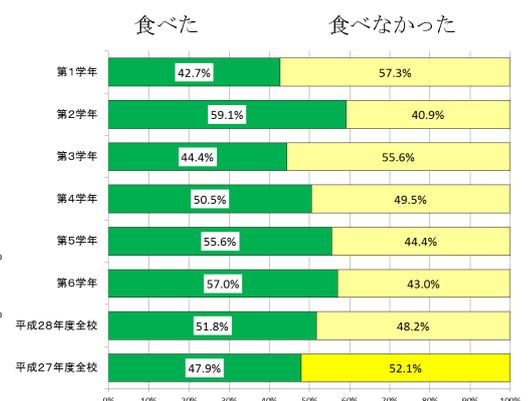
1月「栄養満点!!おったまげー給食」

2月「広島の幸」たっぷりつまっちゃってウ  給食」

2月「V6-2!!うまさが神ってる!広島満点給食」



問い 今朝、野菜を食べましたか。



【取組2】（テーマ）「朝食に野菜を食べる児童の増加」

5月に朝食に関するアンケートを実施。50%を達成。

年に3回「朝ごはんだより」を発行し、家庭に啓発活動を行う。

夏休みに配付する「健康カレンダー」に野菜の摂取を記入させる。

夏休みに「つくってみよう!わたしの朝ごはん!」に応募させる。

2年生生活科や6年生家庭科と連携による指導を実施。

【取組3】(テーマ)「食に関する指導の充実」

学級担任と栄養教諭のTTの授業を各学年年間2時間以上行う。

1年生・・・学級活動(2時間) 2年生・・・学級活動(2時間)

3年生・・・体育科, 社会科 4年生・・・国語科

5年生・・・学級活動, 言語・数理運用科 6年生・・・理科, 言語・数理運用科



4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

夏休み前に「つくって! 食べよう! ひろしま給食」のレシピを配付し家庭に啓発。

夏休みに教職員対象の「食育研修」を行い「タコタコライス」「ひろしまんぷく! シャキシャキサラダ」「広島フルーツぷるるんゼリー」と「卵スープ」を試作し試食。

「食育だより10月号」で保護者や地域に内容を知らせ、「つくレポ」も募集。

実施当日は、校内放送で自作DVDを放映。掲示板に資料を掲示。

「食育だより11月号」で保護者からの「つくレポ」掲載。

「食育だより12月号」で集計結果を報告。



5 取組に対する成果と課題

【成果】

独自献立を数回実施することで、地場産物について理解し、郷土を愛する心が育っている。

食に関する指導は、栄養教諭の配置後5年が経過し、栄養教諭が担任と授業をすることがあたりまえになってきている。引き続き取り組んでいきたい。さらに土曜参観日に行う「食育」の授業公開も定着し家庭への啓発にもつながっている。

地域との連携において、JAの職員が大変協力的である。今後も連絡をとりあっていきたい。また、学区内の幼稚園・保育園とも弁当参観日に栄養教諭が講演に行ったり、年長児が学校に給食体験に来たりと連携を深めている。その結果、入学後スムーズに給食を受け入れることができている。

【課題】

食に関する指導については、例年通りの回数であったが、4年生においては連携が不十分で体育科で関わるができなかった。今後はさらに教科指導の中で関われる単元の発掘が必要である。

家庭との連携については、朝食で野菜を食べる児童の増加を目指してさらなる取組が必要である。

個別指導については、男児の中等度及び高度肥満の児童があわせて3.6%いるので指導を行う必要がある。

6 今後の取組に向けた改善方策について

食に関する指導については、学級担任とともに教科書等を確認し新たな指導のできる単元を発掘する。

家庭との連携においては、朝食で野菜を食べる児童を増加させるための取組をふやし年度内の改善を図る。養護教諭といっしょに肥満傾向児の指導に取り組み改善を図りたい。